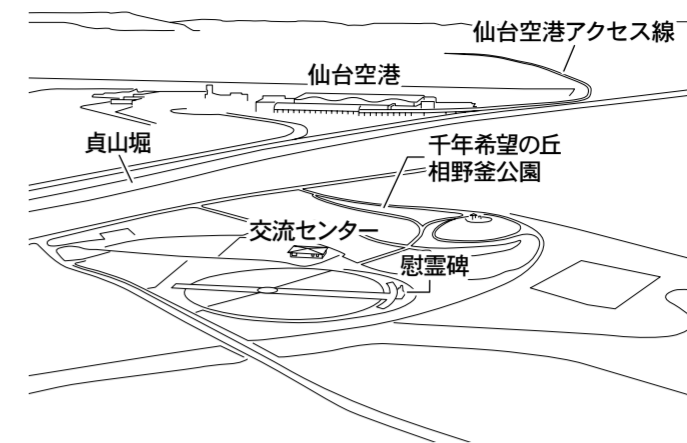


復興の歩み

「創造的復興」の一環として国管理空港で初めて民営化された仙台空港(中央奥)。南側には「千年希望の丘」が広がる。2020年11月18日



宮城 岩沼市 トモダチ作戦 希望の翼に

大津波に襲われた仙台空港周辺。空港ターミナルビルに避難した地域住民も多かった。2011年3月18日



岩沼市と名取市にまたがる東北の空の玄関口、仙台空港は、東日本大震災の大津波によって滑走路もターミナルビルも使えなくなった。震災発生から5日後、米軍の「トモダチ作戦」が始まり、兵士たちが24時間態勢で滑走路のがれきり撤去などの復旧作業に当たった。

日米合同による突貫作業により、約1カ月後に国内線が臨時便6往復で運航を再開。震災半年後には全面復旧にこぎ着けた。仙台空港は復興の象徴的存在だ。

岩沼市全体では、市域の約48%に当たる約2900戸が浸水し、関連死を除く死者・行方不明者は181人。農地は1240戸が被災した。

震災3カ月で全ての避難所が閉じられ、16年4月にはプレハブ仮設住宅が解消された。ともに宮城県内で最も早く、「復興のトップランナー」と称された。

被災した沿岸6集落のコミュニティを維持するため、市は避難所から仮設住宅、集団移転まで、一貫して集落単位で進めた。集団移転先の玉浦西地区のまちづくりは、若者や女性を含めた集落代表や学識経験者らが会合を重ね、行政主導ではなく、住民主体で地域の将来像を練り上げた。

空港と並ぶ復興のシンボルは、慰霊と多重防御、震災伝承の役割を兼ね備える「千年希望の丘」。慰霊碑を建立し、防災教育の拠点となる交流センターを設けた。丘にはこれまでに約35万本の苗木が植樹され、「緑の防潮堤」として津波の勢いを減らすとともに、震災の記憶を未来へつなぐ役割を担う。

あの日から一歩ずつ復興してきた岩手、宮城、福島3県の被災自治体を、定点観測で毎月紹介します。

震災前の仙台空港周辺。東北の空の玄関口として発展してきた。2010年7月(一般社団法人東北地域づくり協会提供)



● まちの動き

- 2011年
 - 3月11日 地震発生。岩沼で震度6弱、高さ10.5mの津波を観測し、市域の約48%が浸水
 - 4月13日 仙台空港の国内線の一部が運航を再開
 - 29日 仮設住宅の引き渡し開始。プレハブ仮設は計384戸整備された
 - 5月7日 震災復興会議が初会合
 - 6月5日 宮城県内で最も早く全ての避難所を閉鎖。ピーク時は26カ所に6825人が身を寄せた
 - 8月7日 震災復興計画ランドデザインを決定
 - 23日 ハイデン米副大統領(当時)が仙台空港を訪問
 - 9月25日 仙台空港が全面復旧
- 2012年
 - 3月30日 復興整備計画が正式決定され、全国第1号となる防災集団移転促進事業が本格始動
- 2013年
 - 6月11日 玉浦西地区まちづくり検討委員会が発足
- 2014年
 - 6月9日 「千年希望の丘」1号丘が完成。第1回植樹祭
 - 12月21日 集団移転先の玉浦西地区で第1期宅地引き渡し式
- 2015年
 - 1月18日 玉浦西まちづくり住民協議会が発足
 - 5月10日 千年希望の丘で慰霊碑除幕式
 - 2月16日 玉浦西地区の災害公営住宅で入居開始
 - 4月1日 いわぬま臨空メガソーラーが商業運転開始
 - 7月7日 玉浦西地区に大型商業施設「フーズガーデン玉浦食彩館」がオープン
 - 19日 玉浦西地区でまち開き
- 2016年
 - 4月24日 千年希望の丘交流センター開所式
 - 28日 宮城県内で最も早く全仮設住宅を解消。ピーク時はプレハブ仮設で1020人が暮らした
- 2017年
 - 5月1日 玉浦コミュニティセンター開所式
- 2018年
 - 3月24日 かさ上げ道路「玉浦希望ライン」が全線開通
- 2019年
 - 3月10日 追悼行事「希望の灯火」を開催
 - 22日 玉浦西地区に再建した東保育所の開所式
- 2020年
 - 5月22日 二野倉第2排水ポンプ場の落成式



市沿岸約10kmに公園6カ所と避難丘14基を整備した「千年希望の丘」。相野釜公園には慰霊碑が建つ。中核の交流センターは震災の記憶を伝える拠点となる。

● まちのデータ

人口	2021年5月1日 4万4368人	11年3月1日 4万4160人	増減率 +0.5%
復興交付金	714億3624万円		
犠牲者	死亡 180人	行方不明 1人	関連死 6人
住宅被害	全壊 736棟	半壊 1606棟	一部破損 3086棟

※復興交付金は復興庁までと、岩沼市内で実施された宮城県事業への交付分を含む。人口、犠牲者、住宅被害は県まとめ

● まちの宝



竹駒神社

竹駒神社は842(承和9)年の創建とされ、「日本三稲荷」の一つに数えられる。五穀豊穡(ほうじょう)、商売繁盛などを願う人々の信仰を集める。境内の唐門は宮城県指定有形文化財。



二木の松

「武隈の松」とも言われる。俳聖松尾芭蕉が訪れ、国の名勝「おくのほそ道の風景地」に指定された。古来、詠み歌が多いことで知られる名松で、芭蕉は「桜より松は二木を三月越し」と詠んだ。



「復興の歩み」の写真は河北新報オンラインニュースで公開しています。紙面掲載以外のカットも見られます。QRコードアクセスできます。